



# 東北のかなめ

vol.73 (2026.7)

東北6県において、地域と防衛との共生を促進するため、  
地域と防衛との架け橋になっている東北防衛局の活動をメインに、  
関連する情報について、年4回、発信します。



日米交流ひな祭り in TOHOKU Town 2026(2月28日)

## 【CONTENTS】

特集1 東松島市鷹来の森運動公園リニューアルオープン記念式典

特集2 日米交流ひな祭り in TOHOKU Town 2026

### 東北防衛局の活動

西郷村新庁舎完成記念式典

北部地域自衛隊等における地域統合の推進

米軍の早期警戒レーダー配備に係る連絡会

若手職員現地実習・新規採用職員研修

創立記念行事などでの政策広報

防衛に対する理解・協力を促進するための講演

新幹部の紹介(4月1日付、4月7日付)

### 地域と防衛との共生：関係する皆さまからのご寄稿

航空自衛隊第37警戒隊山田分屯基地

～山田分屯基地と地域との共生

寺下建設株式会社

～海自八戸(4)鉄塔新設等建築その他工事

令和6年6月から老朽化に伴う大規模改修工事が進められていた東松島市鷹来の森運動公園(宮城県東松島市)が、4月19日、晴天のもとリニューアルオープンしました。

記念式典には、事業主である東松島市の渥美巖市長をはじめ、東松島市議会の石森晃寿議長、衆議院議員の森下千里環境大臣政務官、東北防衛局の池松英浩局長などの関係者のほか、式典後に開催される『ヤックン杯争奪少年野球大会』の参加チームが参列しました。

今回のリニューアルは、球場のバックネットの改修、ナイター照明のLED化及びトイレの改修などが行われ、災害等発生時の避難場所としての機能も充実しました。総事業費は約7億4千万円であり、そのうち防衛施設周辺的生活環境の整備等に関する法律第8条に基づく補助金(防衛施設周辺整備統合事業費補助金)約4億7千万円が充てられました。

渥美市長は、式典の挨拶で「公園のリニューアルには、防衛省の補助金を活用している」ことなどにも触れ、東北防衛局をはじめとする関係者へ感謝を述べました。

池松局長は、日頃の松島飛行場の安定的運用に係る特段の地元の理解と協力について謝意を示し、「引き続き、地域への貢献に積極的に取り組んでまいりたい」とリニューアルオープンへの祝辞を述べました。

式典終了後、『ヤックン杯争奪少年野球大会』が開催されました。今後より多くの人に活用される施設として期待されます。



挨拶をする渥美市長



祝辞を述べる池松局長



関係者によるテープカットの様子

2月28日、青森県東北町において、日米交流ひな祭り in TOHOKU Town 2026を開催しました。

東北防衛局は、在日米軍と地域の相互理解を深めるため、スポーツや文化などを通じて交流する「日米交流事業」を各地で開催しています。東北町では平成24年度からひな祭りを開催しており、今回で11回目を迎えました。

会場には、ひな飾りや着物が展示され、イベントに参加した日米の親子約40名は、交流ゲーム、ボトルランプ工作、琴の演奏、着物の試着、餅つき、料理体験を楽しみました。

今回のイベントは、東北町の長久保耕治町長や米軍三沢基地のJ ポール・コナー第35任務支援群司令などの来賓や東北防衛局の職員も一緒にイベントに参加する「全員参加型」をコンセプトに開催され、参加者全員で交流を深めました。

琴の演奏では、「さくらさくら」や「アメイジング・グレイス」が披露され、演奏後、児童は実際に琴に触れ、琴の音を体験しました。

料理体験では、カップちらし寿司の盛り付けや、茶碗蒸しの具材入れなどを行い、参加者全員でひな祭りにちなんだ料理を楽しみ、子供も大人も、おいしい料理におかわりが続出し、笑顔あふれるお昼となりました。

着物の試着や餅つき体験も楽しんだ参加者からは、「最高に楽しかった。」、「アメリカ人の友達が出来てとてもうれしいです。」と感想が寄せられました。

東北防衛局は、在日米軍と地域住民の方々の相互理解の一助となるよう、今後も様々な形で活動してまいります。



ボトルランプを作成している様子



琴に触れて、音色を体験



参加者全員で楽しんだ料理体験

## 西郷村新庁舎完成記念式典

3月28日、福島県西白河郡西郷村において、西郷村新庁舎完成記念式典が開催されました。式典には、事業主である西郷村の高橋廣志村長、国会議員、福島県知事をはじめ、近隣自治体の市町村長、東北防衛局の池松英浩局長など、関係者約200名が出席しました。

新庁舎は、敷地内に防災備蓄倉庫（令和8年2月完成）を備え、防災公園（令和8年度中に完成予定）を設置するなど、「防災拠点」としての機能を有しています。

この防災公園は、平常時は誰でも利用できる公園（多目的広場）やイベントスペースとして、災害発生時は一時避難場所として使用することができます。

これら防災備蓄倉庫や防災公園などの整備に要する事業費は約3億2千万円であり、そのうち、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律第8条に基づく補助金（民生安定施設整備事業）約1億9千万円が充てられています。



関係者によるテープカット（新庁舎前）



令和8年2月に完成した防災備蓄倉庫

## 北部地域自衛隊等における地域統合の推進

2月12日、海上自衛隊大湊地区総監部（青森県むつ市）において、北部地域自衛隊指揮官会議が開催されました。

会議には、陸上自衛隊北部方面総監、東北方面総監、海上自衛隊横須賀地方総監、航空自衛隊北部航空方面隊司令官、北海道防衛局長、東北防衛局長が参加し、「北部地域自衛隊等における地域統合の推進に関する協定」を締結しました。

この協定は、北部地域において、地元調整や施設整備を含む地域統合、すなわち、防衛省・自衛隊内部の連携を推進するためのものです。

東北防衛局としては、協定の締結を踏まえ、地元調整や施設整備などの情報交換を密とするなど、これまで以上に北部地域における陸海空自衛隊等との連携を深めてまいります。



会議での集合写真

## 米軍の早期警戒レーダー配備に係る連絡会

2月26日、青森県つがる市において、米軍の早期警戒レーダー配備に係る連絡会を開催しました。同レーダーが配備された平成18年6月に第1回目を開催して以降、今回で29回目の開催となります。

この連絡会は、青森県、つがる市、地域町内会、米陸軍車力通信所、空自車力分屯基地、東北防衛局などで構成され、日米の良好な関係を形成・維持することを目的に設置されました。東北防衛局が招集・議事運営を行っています。

今回の連絡会では、米陸軍車力通信所内で爆発事故が発生したとの想定で、令和7年8月19日に行われた重症患者搬送訓練の成果について報告しました。当該訓練は、米陸軍車力通信所から実施について相談を受けた東北防衛局が中心となって、関係機関と調整し実現したもので、万が一の場合に迅速・的確な対応につながる大きな意義があるものです。

訓練参加者は爆発事故による負傷者をドクターヘリで搬送する際の手順を改めて確認するとともに、つがる市消防本部は車力通信所内での消火手順の確認も行いました。同連絡会では、今後も継続して実施することが確認されました。

また、市道豊富18号線の代替道路の整備が、令和7年7月に完了したことなどを報告しました。



重症患者搬送訓練の様子

### ～在日米軍基地で働きませんか～

エルモでは、在日米軍基地で勤務する従業員の募集を行っています。

興味のある方は、エルモホームページをご覧ください。下記までお問い合わせください。

求人情報提供メールサービスに登録すると、希望する求人情報がホームページに掲載される都度、お知らせメールが送信されますのでご利用下さい。

#### 【X(旧Twitter)】

求人情報等の募集関連情報を定期的に発信しています。  
ぜひ、フォローをお願いします。

#### アカウント名

「独立行政法人駐留軍等労働者労務管理機構(エルモ)@LMO\_recruit」



#### 求人情報提供 メールサービス



#### 求人情報 本州・九州の基地



#### 【窓口応募受付・お問い合わせ先】エルモ三沢支部 管理課管理係

電話: 0176-53-4165 住所: 青森県三沢市平畑1-1-25

(担当施設: 三沢飛行場、八戸貯油施設、車力通信所)

LMO

検索

<https://www.lmo.go.jp>

## 若手職員現地実習・新規採用職員研修

東北防衛局は、地域と自衛隊・在日米軍等の間の架け橋となり、地域と防衛の共生を図ることを使命としており、その達成のため必要との観点から、職員の教育を重視しています。

特に将来の東北防衛局を担う若手職員を不断に育成することが重要であることから、職務遂行に必要な能力の向上を図るため、採用2年目から5年目までの若手職員を対象として、現地実習を令和3年度から継続的に実施しており、令和7年度は、11月5日から13日の間、管内の防衛施設やその周辺にある補助事業施設などの概要を現地において実施しました。

現地実習は、青森県内と福島県内の2地区で行われ、若手職員は、いずれかの地区を選択し参加しました。

青森県内を選択した若手職員は、防衛装備庁下北試験場（東通村）、米海軍八戸貯油施設（八戸市ほか）、三沢市やむつ市の補助事業施設において、また、福島県内を選択した若手職員は、陸上自衛隊郡山駐屯地（郡山市）、西郷村の補助事業施設や日本工機株式会社白河製造所において、それぞれ実習に取り組みました。



米海軍八戸貯油施設



三沢市清掃センター



陸上自衛隊郡山駐屯地



実習後の成果報告会

現地実習により、若手職員間の相互理解と信頼関係の醸成のほか、現地実習後の説明資料作成・プレゼンテーションによる若手職員のスキル向上のため、学習した成果を資料にまとめ、局長へ報告しました。

また、4月2日から4月9日までの間、新規採用者14名を迎え、職務遂行に必要な基礎的知識等の習得のため、新規採用職員研修を行いました。

研修では、東北防衛局の沿革や業務、陸海空自衛隊の概要、公務員としての心構えや行政文書管理、近年、社会問題となっているハラスメントの防止や、新入局員のためのヘルスケアなど、様々な分野の座学研修を行いました。

その他、陸上自衛隊仙台駐屯地、航空自衛隊三沢基地や米空軍三沢基地での現地研修を行い、陸空自衛隊と米空軍の部隊について、概況説明を受けるとともに装備品や施設を実際に見学し、学習しました。



東北防衛局の業務などの座学研修



三沢防衛事務所での概況説明



米軍三沢基地での概況説明



米軍三沢基地での現地研修



空自三沢基地での概況説明

## 東北防衛局では 事務官・技官を募集しています

詳しくは、  
防衛省HPを  
ご確認ください。



『自衛隊・在日米軍・地域を繋ぐ架け橋として』



建設現場の監督確認(陸自郡山駐屯地)  
(令和7年7月18日)

『技術の知識や経験を日本の防衛のために』

## 創立記念行事などでの政策広報

東北防衛局は、防衛省の政策や自衛隊の活動について、地域の方々のご理解をいただくため、各地の自衛隊記念行事や各種イベントで広報ブースを開設しています。

第6師団創隊64周年・神町駐屯地創立70周年記念行事(4月19日)では、採用パンフレットや広報紙「東北のかなめ」を配布したほか、広報ブース内に令和7年版防衛白書のパネルを展示し、パネルの中から答えを探し出すクイズを実施しました。クイズは、東北防衛局職員が作成しているもので、大変好評を得ています。

クイズに挑戦していただいた約250名ものの方々には、戦車や戦闘機がプリントされた、オリジナル缶バッジを進呈しました。



政策広報の様子

## 防衛に対する理解・協力を促進するための講演

東北防衛局では、防衛に対する理解・協力を促進するため、防衛政策や自衛隊の活動などについて、当局職員を講師として派遣しています。

4月23日には、山形防衛研究会が主催する講演会において、池松東北防衛局長は、『自らの経験で解説する「まるわかり！日本の防衛」』をテーマに講演を行いました。

「まるわかり！日本の防衛」は、防衛省が日本の防衛に関する入門書として毎年発行しているもので、山形防衛研究会の玉井恒会長をはじめとする参加者約30名に対して、自らの経験を交え説明を行いました。

また、公益社団法人胆江法人会(1月13日)、三沢市議会基地対策特別委員会(1月28日)、一般社団法人仙台キワニスクラブ(3月12日)からの依頼を受け、「令和7年版防衛白書」や「自衛隊施設・三沢基地の最適化事業等」をテーマに講演を行いました。



講師：池松東北防衛局長



講師：榮森企画部次長(当時)

東北6県の地方公共団体、企業、学校などで、講師のご要望がありましたら、ご相談ください。  
【お問い合わせ先：東北防衛局地方調整課地方協力確保室 022-297-8212】

## 新幹部の紹介(4月1日付、4月7日付)

企画部次長 佐藤 浩久 (さとう ひろひさ) (4月1日付)

【前職:東北防衛局 会計監査官】

東北防衛局企画部での勤務は3年ぶりとなります。これまでの経験や知識を活かし、自衛隊・在日米軍と周辺地域の方々とを繋ぐ架け橋となれるよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。



会計監査官 鈴木 正明 (すずき まさあき) (4月1日付)

【前職:中国四国防衛局総務部会計課長】

東北防衛局での勤務は初めてとなります。防衛局の一員として地域の皆さまとの信頼関係を大切に、当局職務の公正な遂行に貢献すべく努めてまいります。よろしくお願いいたします。



郡山防衛事務所長 古賀 茂嗣 (こが しげつぐ) (4月7日付)

【前職:郡山防衛事務所付】

東北防衛局の勤務は初めてであり、また、仙台と離隔した郡山での勤務となりますが、防衛局の皆様と連携を図り、防衛局に貢献できるよう業務に取り組みたいと思います。



### ドローン等の規制が変わりました！

法改正により**ドローン等の飛行禁止エリア**(自衛隊施設／米軍施設及びその周辺地域)が**300mから1,000mに拡大**されます。

これに違反した場合、次のような措置／罰則があります。

- 警察官等による安全確保措置
- 6月以下の拘禁刑／50万円以下の罰金

- ・対象施設
- ・飛行禁止エリアでのドローン等の飛行をする場合の事前手続き
- 等の詳細については防衛省HPへ



〇お問い合わせ先:東北防衛局 地方調整課 022-297-8212

三沢防衛事務所 0176-53-3118

E-mail: drone-th@tohoku.rdb.mod.go.jp(共通)

### 周辺財産の個人・企業等に対する有償使用許可のご案内

三沢・八戸・松島の各飛行場周辺、三沢対地射爆撃場周辺及び王城寺原演習場周辺には、建物等の移転により買い入れた土地(移転補償跡地)が所在し、この土地を「周辺財産」と称しています。

土地の有効活用を図る観点から、周辺財産の行政目的を妨げない範囲で、**個人、企業等に対しても、一定の条件の下、有償での使用許可を行うこととしています。**

〇お問い合わせ先

東北防衛局 施設管理課

電話:022-297-8213

〇こちらから関連ページへアクセスできます



## 航空自衛隊第37警戒隊山田分屯基地 ～ 山田分屯基地と地域との共生

山田町は、岩手県沿岸中部の三陸地方に位置し、山田湾と船越湾の二つの湾を擁しており、その沖合では親潮と黒潮が交差し、世界でも有数の漁場になっています。豊かな漁業資源に恵まれ海産物は殻付きカキ、イカ、アワビ、ウニ、ホタテ、ワカメ、サケなどをはじめとして、折々の季節に海の味覚を堪能することができます。また、1643年にオランダ船「ブレスケンス号」が山田湾に入港し、それがきっかけとなり平成5年にオランダ王国との交流が始まったことで山田湾内に浮かぶ島を「オランダ島」と命名しています。

防衛関連施設としては、航空自衛隊山田分屯基地に第37警戒隊が所在しており、岩手県唯一の航空自衛隊のレーダーサイト部隊として24時間365日、太平洋域における警戒監視任務に粛々と励んでいます。

山田分屯基地は、岩手県沿岸のほぼ中央に位置する山田町と宮古市にまたがる「十二神山(じゅうにしんざん)」標高732メートルに位置するレーダーサイトです。

十二神山は、その名が示すとおり薬師如来の眷属(けんぞく)である十二神将を祭祀された霊山で、山岳修行の行場として古くから女人禁制の山だったとの言い伝えもあります。当分屯基地所在の第37警戒隊のエンブレムは、国防という我々の任務との親和性から、十二神将の中から特に悪鬼征伐の羅刹である「伐折羅(ばさら)大将像」をモチーフにしています。



山田湾内に浮かぶオランダ島。湾内には養殖いかだが無数にあり、海産資源が豊富。



標高約700メートルにある基地正門での集合写真



「伐折羅大将像」モチーフにした部隊エンブレム

### ・地域との関わり 防災訓練

山田分屯基地は毎年自治体、行政機関、自衛隊が相互に連携した総合防災訓練に参加し地震発生を想定した行政職員の非常招集訓練、応急給食炊き出し訓練、林野火災防ぎょ訓練を行い、関係機関との連携強化及び災害派遣に係る能力の向上を図っています。



野戦釜にて応急給食を行う隊員



林野火災防ぎょ訓練にて放水中の隊員

## ・地域との関わり 災害派遣

山田分屯基地ではいつ起きるか分からない自然災害に備え、装備品や災害派遣用物品を保管、点検し常に使える状態を維持するとともに、それらを効果的に運用できるよう訓練を行っています。東日本大震災発災時は近傍基地として初動対応に出動するとともに、各部隊から集結する派遣部隊の拠点として三陸地方の災害派遣の要として機能しました。さらに、災害派遣だけでなく地震や台風、大雨等で自治体に災害対策本部が立ち上がった際は速やかに隊員を派遣し、情報収集・連絡調整を行うことで自治体とのスムーズな連携ができる態勢を構築しています。直近では、令和8年4月に岩手県大槌町にて発生した林野火災において航空自衛隊三沢基地所属のヘリコプターによる空中消火活動を支援しました。



災害派遣用物品を展開し、  
保管状態を定期的に点検



災害派遣に備え、  
水タンクの積載要領の訓練を実施



令和8年4月の大槌町で発生した  
林野火災に対する消火活動支援  
(写真奥が大槌町からの煙雲)

## ・山田分屯基地と地域との交流

近隣市町村で実施されるイベントなどにおいて航空自衛隊や山田分屯基地を広く知っていただくため様々な広報活動を行っています。例えば、毎年恒例の宮古サーモン・ハーフマラソンでは大会運営を支援させていただいています。



宮古サーモン・ハーフマラソンの様子  
(令和7年度)

また、令和7年度は分屯基地司令以下で部隊の応援旗を掲げ、沿道の方々から熱い声援や温かい言葉をかけていただきながら走り切り、地元の皆様に当分屯基地を知っていただく良い機会とするとともに、とても清々しい気持ちで良い汗をかくことができました。

山田分屯基地は、ここ最近InstagramとX(旧Twitter)を開設し、これらを通じて部隊活動を発信し始めましたので、もしよろしければご覧ください。

山田分屯基地は、国民の皆様から信頼され、頼られる基地であり続けることができるよう、これからも努力を続けてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



@JASDF\_YAMADA37P  
山田分屯基地  
Instagram



山田分屯基地  
X(旧Twitter)

山田分屯基地  
公式マスコット  
「バサナくん」



## 寺下建設株式会社～海自八戸(4)鉄塔新設等建築その他工事

寺下建設株式会社(本社:青森県八戸市)は、青森県八戸市において、昭和6年7月に創業以来、地域社会の資本整備に努めてまいりました。

この間、社内体制の構築、人材育成に努め、最近は特に社会問題となっているインフラの老朽化対策や、頻発する災害に伴う復旧・復興への取り組みを強化しております。

さて、この度は東北防衛局発注の「海自八戸(4)鉄塔新設等建築その他工事」において、令和7年度優秀工事顕彰を受賞いたしました。

当該工事は、海上自衛隊八戸航空基地の滑走路への誘導灯(鉄塔)設置等を行うもので工事場所が狭隘であったことや県道と隣り合っていたことから、「仮囲いの転倒・倒壊防止」、「歩行者及び一般車両との接触事故防止」、「基地内部への立入禁止区画設置の強化」など、安全対策に細心の注意を払い施工致しました。また、滑走路を運用しながらの工事であったため、海上自衛隊八戸航空基地の運用に支障が無いよう、基地管理隊の方々と綿密な連絡調整を行い、関係者のご協力のもと円滑な施工を進める事が出来ました。

今回の顕彰受賞を励みとし、今後も品質と技術力の向上を目指して、地域社会の発展に貢献できるよう努力してまいります。



寺下建設株式会社



鉄塔新設①



鉄塔新設②

## 編集後記

本号から広報誌「東北のかなめ」を編集する担当になりました。東北6県において、「地域と防衛との共生を促進する」ことを目的とし、東北防衛局の活動について情報発信するとともに、関係する皆さまからのご寄稿を掲載しています。

引き続き、より多くの皆様にご愛読いただけるよう、より分かりやすい広報に努めてまいります。よろしくお願いいたします。

